

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791700038		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホーム夕陽丘 3階		
所在地	大阪府大阪市天王寺区上汐6-3-9		
自己評価作成日	平成24年9月14日	評価結果市町村受理日	平成24年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域密着型のホームということを念頭に置き、近隣の方との交流を図れるよう、行事等への声掛けを行っている。また、フラワーアレンジメント教室や保育所・幼稚園児の訪問等を定期的に取り入れ、入居者との交流の機会を設けている。 ・毎月フロア・施設全体で会議を行い、ユニット毎の問題点を話し合っている。また、同時に勉強会を実施し、スタッフのスキルアップを図っている。 ・日用品等はできる限りスタッフと入居者が一緒に買いに行き、気分転換にもつながっているようである。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年11月5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>他の地域に複数のグループホームを運営する法人が当ホームを設立し、開設より2年目を迎えています。地域密着型サービスの意義を踏まえ作られた理念の基、ホームが「笑顔あふれる楽しい我が家」となるよう職員は笑顔で利用者との関わりを大切にしています。明るく広いリビングは食事を摂るスペースと寛げるスペースが確保されており、利用者は家庭的でゆったり過ごせる環境を作り、気の合う方同士が会話を楽しんだり好きな事をしながら穏やかに過ごされています。職員は利用者とのコミュニケーションを図れるように笑顔でさりげなく利用者に寄り添っています。また、同時期に併設された小規模多機能型事業所と連携をとりながら地域との交流に力を注ぎ、地域に開かれたホームとなるように日々取り組んでいるホームです。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的人権の尊重、健全育成・援護の実現、社会的自立の助長、地域福祉への貢献。「笑顔あふれる楽しい我が家」をホームの理念に掲げている。	地域密着型サービスとしての法人の理念を基に、職員と話し合いホーム独自のキャッチフレーズを「笑顔あふれる楽しい我が家」と掲げています。家族の協力も得ながら利用者の笑顔を引き出せるように職員も笑顔で接するように努め、理念が活かされているか会議で振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域内の様々な情報を提供して頂いている。また、地域の幼稚園児との交流やふれあい喫茶の参加等を定期的に行っている。	地域のボランティアの受け入れや、保育園児が定期的にホームを訪れ歌やお遊戯の披露など子どもたちと触れ合っています。利用者は区民センターや小学校のふれあい祭りに参加したり、地域のふれあい喫茶に出かけています。ホーム主催の夏まつりには、家族や地域の方々の参加があり地域との交流を大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護の相談、希望者に対して認知症の介護方法・施設選択の助言等を行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現サービスの実施について報告し、ご家族や第三者からの助言を頂き、更なるサービスの向上に努めている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員や地域ネットワーク委員、連合町会女性部長、家族等の参加の下、2ヶ月に1回開催しています。ホームの状況や行事の報告を行ないながら活発な意見交換をしています。参加者からは地域の情報をもらい、サービスに反映させています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社会福祉協議会をはじめ、市役所の職員とも連絡をとりやすい関係を構築するよう努めている。	市役所へ直接出向いた際には、グループホームの状況を伝えたり電話で相談をするなど市の担当者とは密に連絡を取り合い関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員がいつでも閲覧できるよう、各フロアに関係資料を配布している。また、申し送りやカンファレンスの際に、ケアの方法等について職員内で話し合っている。	マニュアルや資料はいつでも閲覧できるようにし、勉強会で身体拘束について話し合っています。入居時に転倒防止のため家族の強い希望により実施していましたが、拘束しないケアについて家族と話し合いを何度も持ち、職員間でも話し合いながら拘束しないケアに取り組んでいます。ユニットの入口はロック式となっていますが閉塞感のないように寄り添うケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員がいつでも閲覧できるよう、各フロアに関係資料を配布している。日頃から身体状態(入浴時等)の観察を行い、早期に皮下出血等を発見し、事故報告書に記入している。また、職員間で報告書を閲覧させ、定例会議にて報告・話し合いの機会を設けている。		

グループホーム夕陽丘（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種公的機関等から資料を収集して学習の機会を設け、必要に応じてご家族へも資料提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と話し合いを実施し、契約後も不安・疑問点には速やかに対応するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ご家族としっかりコミュニケーションをとり、希望や方針等を話し合っている。また、玄関に意見等を投函して頂ける意見箱を設置している。投函があれば速やかに内容を検討し、運営者への報告も随時行っている。	ユニット入口に意見箱を設置し、面会時や家族会、電話等で意見や要望を聞くようにしています。家族の意見より、玄関に置かれた面会簿のシステムを変える等、出された意見や要望は検討をして運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員用意見箱をタイムレコーダー付近に設置し、定期的に意見用紙を回収している。定例会議の際、意見交換を実施している。	フロア会議や全体会議で意見交換をしたり、定期的にアンケートを実施して意見や要望を聞いています。また、職員の様子を見て声をかけたり、意見や思いを言いやすいように配慮しています。職員からは休暇の希望について要望が出され、働きやすい環境を作るように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合せた、業務内容の変更を実施。職員からの提案があれば、できる限り取り入れられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が学習したいテーマを出し合い、それに沿った内容で勉強会を開催することで、参加意欲・学習意欲の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の小規模多機能ホームと会議や職員懇親行事を開催し、交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に際し、十分な説明や施設見学の機会を設け、面接は自宅や病院へ職員が訪問し、本人が緊張せずに話ができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでに、家族様と面接や電話にて連絡をとり、要望や不安等をしっかりと聞き、信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、まず現在の状態や支援内容を把握し、必要に応じて様々な介護サービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「笑顔あふれる楽しい我が家」という理念を掲げ、家族のように接し、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員直筆の手紙を毎月送り、入居者様の状態を報告すると共に、意見交換の場を設けられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、友人や馴染みの方にも面会にお越し頂けるよう働きかけている。また、ご家族の同意のもと、友人や知人との外出支援も行っている。	友人や近所の知人の来訪があったり、利用者の希望で馴染みの美容師がホームを訪れています。また、家族の同意を得て友人と外食をしたり、家族との一泊旅行や自宅へのドライブ、外泊、散歩などこれまでの関係が継続出来るように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介役となり、入居者様同士の円滑なコミュニケーションが図れるよう努めている。		

グループホーム夕陽丘（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、介護サービス等についての相談・助言を受け付けられる体制作りを努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族から希望・意向・生活歴等を聞き、本人らしい生活が送れるよう努めている。	面接時に利用者や家族の思いや意向を聞き、基本情報をアセスメントシートに記入し職員間で共有しています。入居後は利用者との日々の関わった様子を記録し、利用者の思いの把握が困難な時は、家族から聞いて検討し、思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に入居までの経緯や生活歴等についてしっかりと情報収集を行うよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の過ごし方・心身状態をよく観察し、変化が見られた際は主治医やご家族に相談し、ケア方法の変更等を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月を目安にケアプランを見直し、入居者様の変化が見られた際はすぐにケアプランが変更できるようにしている。	利用者や家族の意向や思いを基に、職員の意見を書面で集約しながら、サービス担当者会議を開催して利用者一人ひとりに合った介護計画が作成されています。モニタリングは3ヶ月に1回行い、プランは3ヶ月から6ヶ月で見直しており、変化があった場合は随時見直されています。	記録は丁寧に行われていますが、今後、職員の気づきや関わりの中で得た利用者の思いや情報等も記録し、また介護計画に沿った記録になるよう取り組まれる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各人の変化や気になること等について、毎月まとめの書類を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、各種制度の案内等を行っている。		

グループホーム夕陽丘（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残存能力やニーズをしっかりと把握し、家事などに積極的に参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や本人の意向を把握し、適切な医療処置（訪問診療・訪問歯科・受診付き添い等）が受けられるよう、各種医療機関との連携を取り合っている。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、これまでのかかりつけ医の受診も出来る事を説明しています。受診は家族に対応してもらい、ホームからは情報提供をしています。協力医による定期往診や訪問看護師、訪問歯科、整骨院の往診もあり医師と連携が図られ、また24時間連絡可能な体制が築かれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による定期的な訪問支援を導入し、入居者様の状態の報告や相談を行うことにより、医療面での対応強化を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携を密にとり、スムーズな情報交換や退院後のフォローに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所ができることをしっかりと説明し、スタッフ・ご家族・医療関係者と共に支援に取り組んでいる。	入居時に「看取りの指針」について説明をしています。段階的に本人や家族の意向を確認しながら、終末期に向けて会議を開き、医師や看護師、家族、職員と話し合い方針を共有しています。また、本人や家族の意向をその都度聞き、ホームで出来る事等を伝え納得した最期を迎えられるように取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	天王寺消防署での普通救命講習を受ける機会を設け、緊急時の対応力強化を図っている。また、参加できない職員には書面の閲覧にて周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知機等の設備面や非常時の対応について、地域消防と協力できるよう日頃より関わりを持っている。	年2回の避難訓練は、自主訓練と消防署の参加の下で昼間を想定した訓練を行なっています。消防署から避難場所や避難誘導等の指導を受け災害に備えるように努めています。消防署も近く、救命救急講習など日頃から関わりを持っています。地域との協力については運営推進会議で話し合っています。	

グループホーム夕陽丘（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各人の個性に沿って対応し、人格や自尊心を尊重できるようケアを行っている。	個々の人格や自尊心を大切に、寄り添うケアを第一に考えています。利用者の名前は姓で呼び、入室時はノックをする、排泄時であからさまに声をかけない等の対応をしています。家族や本人の希望で個々に合わせた言葉かけを行う時もあり、不適切な対応が見られた時は都度注意をしたり、気づけるように働きかけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との信頼関係の構築を前提とし、意思疎通の難しい入居者様についても些細なサインから本人のニーズを汲み取り、ケアに反映できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度一日の流れは決まっているが、行事や本人の体調・希望に応じて柔軟に変更できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には定期的に訪問美容があり、また季節ごとに衣替えを行い、その時期に合った服装をして頂いている。足りない衣類等はご家族に用意して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各人の能力や得意・不得意に応じて、可能な家事は手伝って頂いている。	栄養士が立てた献立を基に業者から食材が届きます。利用者の食べたい物は、誕生会や外食、イベント時に取り入れています。食事の準備や後片付けは、利用者の出来る事を職員と一緒にしています。テーブルの配置の工夫や職員も同じテーブルで同じ物を食べながら食事が楽しめる様に努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の摂取状態等を見極め、形態の変更や分量の調節を行い、快適に飲食ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後・就寝前の口腔ケアを行っており、必要に応じて歯科衛生士による口腔ケアも導入している。		

グループホーム夕陽丘（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の尿意・便意の状態やパターンを見極め、随時声掛けや誘導を行っている。	排泄チェック表を活用しながら個々のパターンを把握し、声かけや誘導をしてトイレで排泄が出来るように支援しています。夜間だけ安心の為に紙パンツやパッドを使うなど利用者の希望も大切にしながら、昼夜共に布パンツで過ごし、トイレで排泄が出来るように自立に向けた支援がなされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時以外にも定期的に水分補給の機会を設け、必要に応じて医師の指示のもと、服薬にて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決まっているが、本人の体調等に応じて日や時間を調節するよう努めている。	入浴は週3回の朝から夕方までを基本としていますが、個々の希望や体調に合わせて入浴が出来るように努め、拒否される時は、足浴をしながら気持ち良さを感じてもらい入浴の声かけを工夫し入浴が出来るように支援しています。重度になっても安心して入浴が出来るよう設備も整えられています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干しやシーツ交換で清潔を保ち、室温や湿度の調節にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	何のために服薬しているかを職員がしっかりと把握し、支援するよう努めている。また、薬剤師との連携をとり、薬の説明等をノートに記入して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、各自が役割や楽しみを持って生活できるよう支援している。 散歩、買い物、お茶 等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り本人の希望に沿って買い物や散歩を実施し、ご家族にも協力を呼び掛けている。	日用品やおやつの買い出しに出掛けたり、近所への散歩に行っています。交通機関を使い花見や公園等へ出かける支援をしています。希望によりは家族と一緒に自宅に帰られたり、買い物や大衆劇場へ行くなどの支援をしています。今後はさらに個別に外出支援をしたいと考えられています。	

グループホーム夕陽丘（3階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はほぼ全面的に職員が管理しているが、必要時には本人の意思を尊重し、すぐ使える状態にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には行事やお誕生日会の写真・新聞等を掲示しており、明るい雰囲気を演出できるように配慮している。	共用空間は広く、食事を摂るスペースとゆったりと寛げるスペースが別々に確保され、ソファでは気の合った方達が過ごし、テーブルでは職員と寄り添いながら趣味を楽しみ一人ひとりが和やかに過ごせる空間があります。生花や季節感のある造花を飾り、温度の管理にも気を配り、対面キッチンで食事作りをする音や匂いなど家庭的な雰囲気を感じる事が出来ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は仲の良い入居者様同士でゆっくり過ごせるよう配慮しており、ゆっくりとテレビを観たり、くつろぐためのソファも用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、自宅で使っていた家具等を持ってきて頂くよう説明している。	各居室にはトイレや洗面所、クローゼットが設置されています。入居時に使い慣れた品物を持ってきてもらうように説明をしています。自宅で使っていたベットや寝具、筆筒、テレビ、机などを持ち込み配置の工夫や家族の写真を飾り安心して居心地よく過ごせる居室となっています。自室でピアノを弾いて過ごす等その人らしく暮らせるようにも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各人の居室前に視認しやすい表札を掲げる等の配慮を行い、自立を促すよう心掛けている。		